

陰陽図の応用利用

The application of IN-YOU-ZU for a topographic interpretation

世古口 竜一 [1]; 秋山 幸秀 [1]; 小林 浩 [1]; 高貫 潤一 [1]

Ryuichi Sekoguchi[1]; Yukihide Akiyama[1]; Hiroshi Kobayashi[1]; Junichi Takanuki[1]

[1] 朝日航洋

[1] Aero Asahi Corporation

地形などの三次元データを利用して形状を持つ特徴を視覚的に現す方法のひとつが陰陽図である。

地形は起伏に富んでいる。また狭域においても変化は複雑である。標高の高いところにも低いところにも、傾斜の激しいところにも平坦な場所にも、付近に大きな山や谷があるときもないときも、形状は凹凸の連続である。凹凸を波の振幅と置き換えれば大きな波の上にそれよりも小さな波が乗っていることに気が付く。起伏が陰値であるか陽値であるかを大きさに区分することで地形判読が可能となる。例として榛名山と赤城山が双子の火山の様に火口原や火砕流堆積物や溶岩流の形状が判別できている。(Fig.01 参照)

この陰陽図による地形の形状の分析は始まったばかりである。更なる発展が期待される。

